

一里半許山奥にて、今家十軒餘あり。黒嶺城の大手にて、城戸といふ所あり。」と記する。

イシサカオホケミ 石坂大組 金澤石坂に住した大組足輕の組地をいふ。藩政時代に大組足輕は大衆免に一組と石坂に二組とあつて、後者を上の組・下の組、又は四丁目の組・六丁目の組とも稱した。この地今は石坂角場に屬する。

イシサカカクバ 石坂角場 金澤の町名で、一番丁から十二番丁までである。これは明治四年四月戸籍編成の時、元大組角場の近邊をすべて石坂角場何番丁として町名を建てたのである。角場といふのは、舊藩中大組足輕の鐵炮習練の爲にした射的場のことである。

イシサカカハギシマチ 石坂川岸町 金澤の町名。町會所留記に、文政四年二月金澤城下に接續する郡地相對請地町家建のヶ所を町奉行の支配とした時、『石坂村領川より末は針屋町、右村領川より西は石坂川岸。』とあつて、此の川は野町と石坂との境地なる用水であり、これあるによつて石坂川岸の名が起つたのである。明治四年四月町名改正の時、石坂川岸町と呼ぶことになつた。

イシサカゴジユウニシマチ 石坂五十人町 金澤の町名で、舊藩時代には足輕の組地であつた。

イシサカチヤヤマチ 石坂茶屋町 金澤の舊町名。もと助九郎町・針屋町の内、細民の居住地であつたが、文政三年三月初めて妓樓を置くことを許され、町名を石坂茶屋町一番丁・二番丁・三番丁と稱することになつた。

然るに天保二年八月妓樓の閉鎖を命じたので茶屋町の名を廢し、慶應三年五月再開を許されて石坂町を西新地といひ、明治四年四月戸籍編成の時また石坂町とした。

イシサカマチ 石坂町 金澤の町名。野町の裏で、昔は石坂村が此の地の邊にあつたといふ。然るに泉野の追々町地となるに及び、石坂村も亦藩士の下邸などとなり、元祿の頃には既に石坂町の名が見える。しかし今の石坂町とは廣狹大小の差があるであらう。この附近は俗に凡べて石坂と呼び、石坂千軒とも石坂壘ともいふた。

イシサカヨリキマチ 石坂與力町 金澤の町名。野町與力町と呼んだこともある。寛文七年三月廿日與力等に、今年より三年の内、小立野及び泉野に定めた與力屋敷の内に移轉すべきことを命ぜられたが、その小立野といふは今の與力町、泉野といふは今の石坂與力町である。

イシサキ 石崎 鹿島郡奥原保に屬する部落。邑名は石崎即ち屏風崎があるから起る。能登名跡志に、『石崎村は、加越能の海を釣、指網採して、海上を家にしてかせぐ所也。公領也。』と見える。

イシサキ 石崎 鹿島郡石崎の部落から斗出する岬角。又石崎屏風ともいふ。
イシサキビヨウブ 石崎屏風 ↓ビヨウブセト 屏風瀬戸。

イシソウトウ 石層塔 (一)鶴來の九重石塔―石川郡鶴來から白山比咩神社に通ふ道路の中、舟岡山の麓附近にあつた。土屋勘四郎義正の建立したもので、於石川郡山内白山村奉造立石塔一基云々廿慶安五壬辰年仲秋吉辰

(自餘の文字は磨滅)とあつたが、明治の後破壊せられた。

(二)中段の石層塔―鳳至郡中段小字毘沙門に鎮座する白山神社境内に五重の石層塔を存する。基石幅九三・三榎、初層(屋根共)高さ八七・八榎、第二層五一・八榎、第三層五〇・六榎、第四層四六・三榎、第五層四八・四榎、相輪部は二八・七榎を残して餘は缺損し、初層の中に長四五・六榎の座像大日如來を安置する。塔の全長三七五・七榎。

(三)明泉寺の石層塔―鳳至郡明泉寺に五層石塔があり、その下層二重のみを今存する。基壇三〇三榎平方、二層屋蓋までの高さ三五九榎、初層内に大日如來の座像を安置する。その高さ七四榎二。古圖によればこれは東塔で、その他に西塔があつたが今存せぬ。

(四)前波の石層塔―鳳至郡前波の圓山にも石造五重塔婆があつた。今崩壊して遺構散亂し、その屋蓋の一は祭禮の際神輿の休憩場に用ひられてゐる。

(五)岩倉寺の石層塔―鳳至郡西時國なる岩倉寺門内左右にも五重の石層塔がある。高さ二八八榎、臺石の高さ七六榎、幅八二榎、奥行七九榎のもので、最下層の身部に佛像が彫刻せられてゐる。

イシソトバ 石卒都邊 ↓イタバ 板碑。
イシタウゲ 石崎 羽咋郡齊達から原に越す峠で、高さ三三三二米を有する。
イシタテ 石立 石川郡笠間郷に屬する部落。この村名は文安五年六月の石清水八幡宮寄進狀に見える。名義は同領に、五本の石を立てた所があるに因る。里人は之を石の木宮と稱する。郷村名義抄には往古この村を濱崎

といつたと見え、又寶永誌には、この村に狩野隱岐といふ者の居住した屋敷跡があると記する。

イシダヘイキチ 石田平吉 能美郡小松の陶工。もと家を北市屋といひ、北玉堂と號した。享和元年生まれ、繪畫を好み、製陶を學び、文政七年若杉窯に入つた。天保二年吉田屋窯に轉じ、四年自ら小松に開業し、その瀆用を命ぜられるに及んで、苗字を許された。明治三年五十八歳を以て歿。

イシダホ 石田保 康正二年造内裏段錢並國役引付に、『一貫文同注所殿賀州石田保段錢。』とある。石川郡村井の垣内に石田のあるものがそれであらう。

イシヅカ 石塚 鹿島郡一寄庄に屬する部落。能登誌に、梵字を彫つた大石を立てる塚あるが故に名づけたとある。明治八年十月久乃木に合併せられた。

イシヅカガハ 石塚川 鹿島郡久乃木・坪川・西・若林・飯川入合領の五山から流出し、三階村領で二宮川に落合ふ。流程八軒許。
イシヅカノ 石塚野 鹿島郡久乃木の南山麓の地をいふ。

イシツボ 石坪 鳳至郡曾山の内の小字。在つて、又愛宕山ともいふ。昔敷地天神百二十末社の一つである石堂があつた。山口記に、慶長五年の役に前田利長が巡見してこの山に登つたのを、山口右京が惚ひ打したがあたりなかつたとある。
イシナサカジヨウ 石那坂城 金澤淺野川上川除町の邊にあつて、一向一揆の徒の堡塞であつたといふ。